

【基調講演】

CITP制度

～ 発足の経緯と今後の期待 ～

2016年2月4日

情報処理学会 資格制度運営委員会 委員長
旭 寛治

CITP制度とは

■ 情報処理学会の高度IT資格制度

CITP[®] : Certified IT Professional (認定情報技術者[®])

<http://www.ipsj.or.jp/citp.html>

■ 国内外の標準に整合

- 国内標準: ITスキル標準 (ITSS)
- 国際標準: ISO/IEC 24773

➡ グローバルに通用する資格

■ ITSSのレベル4以上の上級技術者が対象

■ 3年ごとの更新制 (更新には所定のCPDが必要)

■ 制度の運用:

- 個人認証と企業認定の2本立て

これまでの経緯

- 2008年：IPAと情報処理学会とで高度IT人材の資格制度を検討するWGを設置
 - ITSSや国際標準と整合を取ること等、基本方針を策定
- 2009～2012年度：情報処理学会で制度設計
 - 2012年には、情報処理学会デジタルプラクティスに制度案詳細を掲載した等、関連団体に説明
 - 経産省 産業構造審議会 人材育成WGで提案
- 2013年6月：制度創設を発表
- 2014年度：個人認証の本運用を開始
- 2015年度：企業認定の本運用を開始
 - これまでに59名を認定

http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS... ニュース - 情報処理学会...

BYOD ビックデータ 中国・アジア

情報処理学会、ITエンジニアの新認定制度を開始

2014/06/30
池上 俊也=日経SYSTEMS (筆者執筆記事一覧)

333 4 39 85

おすすめ 共有 ブックマーク シェア

会場
グランフロント大阪・ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンター

無料事前登録はこちらから

desknet's NEOでビジネスのいろいろな問題を解決!

ITproまとめ
Windows 10
ユニバーサルアプリ

執筆者 一覧

記事カテゴリ
ITpro全記事一覧
特集
ニュース
連載
インタビュー
事例
キーワード
イベント
週末スペシャル
CIO
Computerworld

イベントINFO -PR-
クラウド、Security
ビックデータ、
スマートデバイス、

http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/... News & Trend - 「IT技...

BYOD ビックデータ 中国・アジア

News & Trend

「IT技術者を社会から尊敬される職業に」、情報処理学会が新資格制度を始めた理由

2014/08/19
進藤 智則=日経コンピュータ (筆者執筆記事一覧)

698 23 41 53 223

おすすめ 共有 ブックマーク Pocket ツイート シェア

ITproまとめ
Windows 10
ユニバーサルアプリ

執筆者 一覧

記事カテゴリ
ITpro全記事一覧
特集
ニュース
連載
インタビュー
事例
キーワード
イベント
週末スペシャル
CIO
Computerworld

イベントINFO -PR-
最速プリンターで業務効率改善!
RISO Print Festa

認定情報技術者 (CITP) 制度

レベル7 (世界で認知)
レベル6 (国内で認知)
レベル5 (社内でリード)

個人認証 企業認定

情報処理技術者試験

EXECUTIVE 無料スカウト登録はコチラ

情報システムの最新記事 >>> 一覧

ネットワーク、Azureに加えてニフティクラウドもプリペイドで提供
サイオス、機械学習エンジンを搭載したVMware運用分析ソフトを発表
東電がスマートメーターで自動検針、20年に2700万件の全顧客に
ITproアクセス・ランキング ベスト100 (2015年1月)
「タブレット」と「デスクトップ」、2つのモードを切り替える
PART2 図解 DevOpsの全貌

CIO COMPUTERWORLD

いま読まれている記事

- 【記者の眼】「多重下請けは本当に必要悪なのか」から1年、見えてきた新SIモデル
- 【ニュース】東電がスマートメーターで自動検針、20年に2700万件の全顧客に
- 【新しいWindows 10 Technical Previewはどこが変わったのか?】「タブレット」と「デスクトップ」、2つのモードを切り替える
- 【ニュース】7部門で首位交代、首位返り咲き目立つ...「パートナー満足度調査 2015」結果発表
- 【企業が陥る、失敗だらけのソーシャルメディア活用】業務でSNSを使っているにもかかわらず上司が叱責、何が問題なのか?

これからのIT投資術 -PR-
コスト削減だけではない!

情報技術者の意識

- 「仕事がきつい」「給料が低い」など3Kイメージが強い
 - ➡ IT業界に就職した先輩たちの意識が学生に影響
- IT業界の実態は、他の業界と比べて
 - 残業時間：同様
 - 給与水準：むしろ高い
- 情報技術者は、自分の職業を実態よりもネガティブに捉える傾向がある
- 情報技術者のプロフェッションが確立しておらず、自分の職業に誇りを持ってないことが主な要因の一つ
- 1970年代、80年代には最先端の分野としての魅力があったIT産業の成熟、機器のコモディティ化により魅力が薄れた

制度検討の背景(2)

- 東京証券取引所のシステムトラブルをはじめとして、社会的に大きな影響を与える事故が多発
 - 原因の1つに、システムの開発に携わった情報技術者の技術力の問題が指摘された
- 2007年、IFIP(情報処理国際連合)にIP3(高度IT人材資格制度の推進組織)が発足
- i-Japan戦略2015(2009年、政府発表)に「高度デジタル人材の認定・認証」が明記
 - 高度IT資格の必要性が国内外で高まっていた

CITP制度の目的(1)

- 高度な能力を持つ情報技術者の可視化と社会的地位の向上(プロフェッションの確立)
 - 情報技術者に目標を示し、技術の向上に資すること
 - 情報技術者の能力を客観的に評価する尺度を提供し、これを通じて情報技術者の社会的地位の確立を図ること
 - 情報技術者の育成、教育に活用できること
 - 国際標準に準拠した資格制度の確立を通じて、グローバルに通用する情報技術者の育成に資するとともに、高度な情報技術者の評価に関する国際ルールの策定に貢献すること

CITP制度の目的(2)

- プロフェッショナルコミュニティの形成
 - CITP有資格者によるコミュニティを構築
 - 技術者同士の交流を通じた自律的な質の向上
 - 社会提言、外部の審議会・委員会等への参画、情報分野における人材育成活動、地域活動などを含む様々なプロフェッショナル貢献活動
 - ピアレビューによる高レベル情報技術者の評価
- 社会や産業界に対する一層の貢献を推進
 - 結果として、情報技術者の社会的地位が向上

プロフェッショナルコミュニティに関する意見

■ 高度IT資格制度座談会での意見

(2012年1月、産官学のIT人材育成関係者が出席)

- 高度IT人材育成のためにはプロコミの形成が重要
- 最先端の技術について議論することにより、モチベーションや技術力の向上が図れる
- 優秀な技術者ほど自己のレベルアップに熱心
そういう人々を組織化する仕組み、仕掛けが重要
- 上級技術者にとってプロコミは重要。技術士に尋ねると、プロコミに参加できることが最大のメリットという
- プロコミには、情報交換や相互研鑽を目的とした自発的な集まりもあるが、高度資格にはピアレビューの運営母体としての組織的な集まりが必要

プロフェッショナルコミュニティの誕生

■ 産業構造審議会の提言(2007年)

- 情報経済分科会 情報サービス・ソフトウェア小委員会
人材育成ワーキンググループ報告書
「高度IT 人材の育成をめざして」
- 高度IT人材育成に向けた施策の一つとしてプロフェッショナルコミュニティの確立を提言

■ CITPコミュニティ発足(2014年)

- 2014年11月に第1回コミュニティ会合
- コミュニティ活動方針を議論
- 今回(ソフトウェアジャパン2016)、初のCITPフォーラム開催

資格制度のメリット/ニーズ

- 情報処理技術者の社会的地位の向上
- 情報処理技術者の質の向上
 - ➡ その結果としての、情報システムの質の向上
- 組織内の人材育成に活用
 - 社内・グループ内の人材育成や評価
 - 官公庁、教育機関、独立行政法人などで、技術系職員の採用、キャリア形成、評価
- 外部組織の評価に活用
 - ユーザーがベンダーを選定する際の参考指標
 - ➡ ベンダー企業、下請け企業のセールストーク
 - オフショア開発での委託先選定時の参考指標
 - JVを組むときに、相互の実力評価に活用

IP3の資格制度

■ IP3: International Professional Practice Partnership

- IFIP(情報処理国際連合)が推進する高度IT人材の国際的な相互資格認証の枠組み
- 情報処理学会は2009年6月に加入
2010年1月よりボードメンバー

■ IP3資格制度の特徴

- ISO/IEC 24773等に適合
- 各国の資格制度に一定の要件を課すことにより、国際同等性を確保
- IFIPが各国のメンバー学会を資格認証機関として認定
- CITPはIP3の認定を取得予定

資格更新に必要なCPD(1)

■ CPD: Continuing Professional Development

- 技術者が自らの資質(技術力や応用能力)向上を目的として行う継続的活動
- CPD活動の区分:
 - ① CITPとしての能力を磨く活動
講演会・講習会等の受講、シンポジウム・研修会・見学会、コミュニティ活動などへの参加など
 - ② プロフェッショナル貢献活動
技術発表、執筆活動、特許申請、後進の指導、公的機関の委員、論文の査読、講演会講師など

資格更新に必要なCPD(2)

■ CPD活動のカウント

- CPD時間: CPD活動にかかる実時間
- CPDポイント: CPD時間 × 換算係数(重み)
〈例〉 シンポジウムで2時間の講演を受講 $2 \times 1 = 2$
 シンポジウムで30分の講演を実施 $0.5 \times 10 = 5$

■ CITP資格の更新要件

- 3年間に150ポイント以上のCPD活動が必要
- 内、プロフェッショナル貢献活動が50ポイント以上
- CPD活動のエビデンスが必要
〈例〉 講演会・講習会等の受講証明書

CPDポイント算定表(1)

実施形態	区分	内容	ベース	重み	
集合研修 (受講)	①	本会、関係学協会(学術団体、 公益法人を含む)、大学、民間 団体および企業が開催する研 究発表会、研修会、講演会、講 習会、シンポジウム、セミナー、公 開講座等の聴講	テスト、演 習等あり	受講時間	2
			テスト、演 習等なし		1
		見学会、ワークショップ、コミュニティ活動へ の参加	参加時間	1	
研究会発表	②	本会および関係学協会、民間 団体等が主催する研究会、シン ポジウム、全国大会、FIT、国際 会議等での口頭発表。社内技 術発表会での口頭発表	登壇あり	発表時間	10
			ポスタ		2
論文掲載	②	本会および関係学協会が発行する論文誌、 技術誌等への査読付き論文	ページ	30	
		本会、関係学協会および企業が発行する出 版物への査読なし論文		10	

CPDポイント算定表(2)

実施形態	区分	内容		ベース	重み
著作	②	技術図書(原著)刊行		ページ	10
		技術図書(翻訳)刊行			5
研修会講師	②	本会、関係学協会、大学、民間団体および企業が開催する研修会、講習会、技術説明会、大学等の非常勤講師など	初回	講演時間	3
			2回目以降		2
		社内研修会の講師など	初回		3
			2回目以降		2
	メンター、後進の指導など(月単位)			人数×月	2
公的団体への貢献	②	政府・自治体、独立行政法人等機関、学協会、業界団体などの審議会・研究会・委員会、WG等の委員		所要時間	3
		国際、国内、業界標準の作成			4
		裁判等での技術鑑定			4

CPDポイント算定表(3)

実施形態	区分	内容	ベース	重み	
公的団体への 貢献	②	JABEE審査	所要時間	3	
		論文などの査読	件数	10	
		CITPの審査	個人認証	審査件数	6
			企業認定	所要時間	3
		初中等教育における技術指導	所要時間	2	
技術的成果	②	業務活動を通じて上げた社内 外での著しい技術的成果	単独	件数	20
			共同	件数	20
		特許(発明者に限る)	公開時	件数	10
			権利化時	件数	20
		組織内での技術的成果の共有	単独	件数	10
			共同	件数	10
		組織内の技術審査、資格審査、公開される 企業の技術ジャーナルや技報の査読	件数	5	
自己学習	①	CITPのCPDに値すると判断される活動	件数他		

今後への期待

■ CIPコミュニティの発展

- コミュニティメンバーの拡大(CIP有資格者の拡大)
- コミュニティ活動の進展
- 社会、産業界への貢献

■ CIPのブランド価値の向上

- CIPは「プロフェッショナルとしての倫理」を重視
⇒ 倫理の実践により、社会的信用・地位向上
- CIPのブランド価値は、CIP自身で決まる

認定未取得の方へ：CITPの勧め

■ 個人認証

- 情報技術者は、自らの能力を客観的に証明できる
- キャリアアップやスキルアップを図るための目標が明確になる(企業は人材育成の指標として活用可)
- コミュニティを通じて、社会への貢献が可能になる

■ 企業認定

- 自社の資格制度を、グローバルに通用する資格制度に位置付けることができる
- 自社人材の能力を標準的指標で評価することができる

【基調講演】

CITP制度

～ 発足の経緯と今後の期待 ～

ご清聴ありがとうございました